# キャンパス移転に伴う教職員の居住に関するアンケート結果

2010 年 4 月
九州大学新キャンパス計画推進室

アンケートの概要

■調査対象
平成 21 年 12 月現在、九州大学に勤める伊都キャンパス移転対象部局の教職員
■調査期間
平成 21 年 12 月 8 日～平成 22 年 1 月 8 日
■調査方法
ホームページ上での無記名アンケート調査。
■回答者
総数　349 名
■アンケート内容
○所属等・現在の居住に関する質問
1. 所属
2. 職種
3. 性別
4. 年齢
5. 住所
6. 住所（町名）
7. 居住形態
8. 家賃月額
9. 世帯構成
10. 現在の勤務場所
11. 通勤手段
12. 通勤所要時間
○所属等・現在の居住に関する質問
13. 新キャンパスの職場環境
○キャンパス移転に伴う、居住に関する希望・計画に関する質問
14. キャンパス移転に伴い、居住をどうするのか
●問 14「既に住み替えた」と答えた方への質問
15. 住み替えた理由
16. 住み替える住居を選ぶ際に重要視した事柄
17. 住み替えて良かったと思うこと
18. 住環境に関する不満
●問 14「いずれ住み替える」と答えた方への質問
19. 転居時期予定
20. 転居先住所予定
21. 転居先決定の際に重要と思うこと
22. 通勤手段の希望
23. 住居形態の希望
24. 住居の広さの希望
25. 家賃月額の希望
26. 土地建物購入費の希望
●問 14「様子を見て考える」・「住み替える予定はない」と答えた方への質問
27. 「様子を見て考える」・「住み替える予定はない」理由
○伊都キャンパス周辺の生活環境に関する意見
28. 伊都キャンパスへの通勤に関し、必要なもの・希望すること
29. 伊都キャンパス周辺の生活環境等に関しての意見・要望

# キャンパス移転に伴う「教職員の居住」に関する意向調査

以下のアンケートに記載して、平成22年1月8日（金）までにホームページ上でご回答ください。なお、回答された内容は、統計処理してホームページ等で公開しますが、個人を特定することはありません。

## ■ あなたの所属等についてお伺いします。

問１．所属はどちらですか。

☐人文科学研究院　☐比較社会文化研究院　☐人間環境学研究院　☐法学研究院
☐経済学研究院　☐言語文化研究院　☐理学研究院　☐数理学研究院
☐工学研究院　☐システム情報科学研究院　☐農学研究院　☐附属図書館（伊都）
☐附属図書館（箱崎）　☐情報基盤研究開発センター　☐事務局　☐貝塚地区事務部
☐理学部等事務部　☐比較社会文化学府等事務部　☐工学部等事務部　☐農学部事務部
☐高等教育開発推進センター　☐水素エネルギー国際研究センター　☐未来化学創造センター
☐稲盛フロンティア研究センター　☐健康科学センター
☐その他（教員）　☐その他（職員）

問２．職種は何ですか。

○教授　○准教授　○講師　○助教　○准助教　○事務職員　○技術職員
○その他

問３．性別はどちらですか。

男性　女性

問４．何歳ですか。

２０代　３０代　４０代　５０代　６０代以上

問５．現在のお住まいはどこですか。

☐福岡市東区　☐福岡市博多区　☐福岡市中央区　☐福岡市南区　☐福岡市城南区
☐福岡市早良区　☐福岡市西区　☐前原市　☐二丈町　☐志摩町　☐古賀市
☐福津市　☐宗像市　☐春日市　☐大野城市　☐太宰府市　☐筑紫野市　☐那珂川町
☐糟屋郡　☐北九州市地区　☐筑後地区　☐筑豊地区　☐唐津地区
☐その他

問６．上記で西区あるいは前原市にお住いの方は町名をお答えください。

福岡市西区　　前原市

問７．現在のお住まいは次のどのタイプでしょうか。

○戸建て住宅（持ち家）　○戸建て住宅（借家）
○マンション・アパートタイプ（持ち家）　○マンション・アパートタイプ（借家）
○職員宿舎　○公団の賃貸住宅　○公営住宅
○その他

問８．上記の問７で「借家」と回答された方は、家賃月額はいくらですか。

○4万円未満　○4～5万円　○5～6万円　○6～7万円
○7～8万円　○8～10万円　○10～12万円　○12万円以上

問９．世帯構成（世帯人数）をお答えください。
◯単身（１人）　◯単身＋親と同居　◯夫婦（２人）　◯夫婦＋子供１人（３人）
◯夫婦＋子供２人（４人）　◯夫婦＋子供３人以上（５人以上）　◯夫婦＋親と同居
◯３世代同居（親＋夫婦＋子供）　◯その他（具体的に）

問１０．平成２１年１２月現在の主な勤務場所はどこですか。
◯伊都　◯箱崎　◯病院　◯筑紫　◯原町　◯大橋　◯その他（　　）

問１１．現在、住居から大学へ通勤する際、最後の交通手段は何ですか？
（すべて徒歩で通勤している方以外は、「すべて徒歩」以外の通勤手段を選んでください。）
◯鉄道(JR，地下鉄，西鉄)　◯天神・博多駅から西鉄バス　◯九大学研都市駅から昭和バス
◯前原コミュニティバス　◯路線バス　◯自家用車　◯タクシー　◯バイク
◯自転車　◯すべて徒歩

問１２．現在、通勤に要する時間はどのくらいですか。
◯15分未満　◯15～30分　◯30～45分　◯45～60分
◯60～90分　◯90～120分　◯それ以上（　　分）

## ■ 伊都キャンパスの職場環境についてお尋ねします。

問１３．上記の問１０で「伊都」と回答された方だけにお伺いします（それ以外は問１４へ）。
新キャンパスの職場環境は如何ですか。３つ以内でお答えください。
□自然環境が良い　□研究施設が良い　□施設が新しく快適　□通勤が便利　□食べ物がおいしい
□通勤が不便　□食事処が少ない　□病院が遠い　□安全上の不安がある　□買い物が不便
□風が強い　□その他

## ■ 住居についてお尋ねします。

問１４．キャンパス移転に伴い、住居はどうされますか。
◯既に住み替えた　→ 問１５へ進んでください
◯いずれ住み替える　→ 問１９へ進んでください
◯様子を見て考える　→ 問２７へ進んでください
◯住み替える予定はない　→ 問２７へ進んでください

## ■ 上記の問１４において「既に住み替えた」と答えた方にお伺いします。

問１５．住み替えた理由は何ですか。
◯通勤が便利だから　◯自然が豊かなため　◯食べ物がおいしいため
◯教育環境が良いため　◯家族等の勧めで　◯もともと地元であるから
◯その他

問１６．住み替える住居を選ぶにあたって、重要視した事柄は何ですか。３つ以内でお答えください。
□家賃または物件購入費　□子供の教育環境が充実していること　□自然環境が豊かであること
□買い物に便利であること　□大学までの交通の便が良いこと　□駅やバス停までの距離が近い
□天神等の都心までの交通の便が良いこと　□公園や運動場との距離が近いこと　□治安が良い
□医療施設が充実していること　□静かなこと　□敷地が広いこと　□なじみのある土地であること
□その他

問１７．住み替えて良かったことは何ですか。３つ以内でお答えください。
□自然環境が良い　□通勤が便利　□教育環境が良い　□食べ物がおいしい　□交通の便がよい
□人柄がよい　□医療が充実　□静かで快適　□週末レジャーが手軽　□治安が良い
□歴史がある　□その他

問１８. 住環境に関して現在の不満は何ですか。３つ以内でお答えください。

☐交通が不便 ☐コンビニが少ない ☐教育環境が悪い ☐医療に不安 ☐夜暗い
☐バスが少ない ☐電車が少ない ☐タクシー代がかかる ☐虫が多い ☐治安が悪い
☐文化施設が少ない ☐その他

→ 問２８へ進んでください

## ■ 問１４で「いずれ住み替える」と答えた方にお伺いします。

問１９. 転居時期はいつ頃をお考えですか。最も近いと思われる時期をお答え下さい。

○平成22年3月まで ○平成22年4月～平成22年9月
○平成22年10月～平成23年4月 ○その他（平成　　年頃）

問２０. 今の時点で、どのあたりに転居をお考えですか。（こちらを参照ください。）

○今宿・横浜・九大学研都市駅 ○周船寺・田尻地区 ○波多江・高田地区
○前原市街地 ○志摩町市街地 ○二丈町 ○西区姪浜周辺
○早良区西新周辺 ○上記以外の糸島半島内 ○その他（地名：　　）

問２１. 転居先を決定する際に特に重視するのはどのようなことですか。３つ以内でお答えください。

☐家賃または物件購入費 ☐子供の教育環境が充実していること
☐自然環境が豊かであること ☐買い物に便利であること
☐大学までの距離が近いこと ☐駅やバス停までの距離が近いこと
☐天神等の都心までの距離が近いこと ☐公園や運動場との距離が近いこと
☐治安が良いこと ☐医療施設が充実していること
☐静かなこと ☐敷地が広いこと
☐なじみのある土地であること
☐その他

問２２. 住居から大学までの通勤に、どのような交通手段の利用をお考えですか。（複数選択可）

☐徒歩 ☐路線バス（昭和バス） ☐路線バス（前原コミュニティバス） ☐自動車
☐バイク ☐自転車 ☐鉄道 ☐天神・博多からの直行バス（西鉄バス）
☐その他

問２３. 転居する場合、住宅はどの形態を希望しますか。

○戸建て住宅（持ち家） ○戸建て住宅（借家）
○マンション・アパートタイプ（持ち家） ○マンション・アパートタイプ（借家）
○大学の宿舎 ○定期借地 ○その他

問２４. 広さはどの程度を希望しますか。

○ワンルーム ○１ＤＫ ○２ＬＤＫ
○３ＬＤＫ ○４ＬＤＫ ○５ＬＤＫ
○その他

問２５. 問２３で「借家」と答えた方は、家賃を月額どの程度でお考えですか。

○４万円未満 ○４～５万円 ○５～６万円 ○６～７万円
○７～８万円 ○８～１０万円 ○１０～１２万円 ○１２万円以上

問２６. 問２３で「持ち家」と答えた方は、土地建物の購入費用をどの程度でお考えですか。

○999万円未満 ○1,000万円～1,499万円 ○1,500万円～1,999万円 ○2,000万円～2,499万円
○2,500万円～2,999万円 ○3,000万円～3,499万円 ○3,500万円～3,999万円
○4,000万円～5,000万円 ○その他

→ 問２８へ進んでください

## ■ 問１４で「様子を見て考える」及び「住み替える予定はない」と答えた方にお伺いします。

問２７. 何故ですか。

- ○ 現在持ち家のため
- ○ 都心から離れるのが嫌だから
- ○ 既に伊都ｷｬﾝﾊﾟｽ周辺に住んでいるため
- ○ その他（具体的に）

## ■伊都キャンパス周辺の生活環境に関するご意見

問２８. 伊都キャンパスへの通勤に関し、今後、利便性をさらに向上させていく上で、
必要なもの・希望することはありますか。（複数選択可）

- □ 平日におけるバスの充実
- □ 土日祝におけるバスの充実
- □ 夜遅くまでのバス運行
- □ ＪＲ筑肥線の充実
- □ 鉄軌道系の導入（学研都市駅－キャンパス間）
- □ 自動車専用道路の延伸（西九州道－キャンパス間）
- □ レンタサイクルの導入
- □ 特になし
- □ その他

問２９. 伊都ｷｬﾝﾊﾟｽ周辺の生活環境等に関して、ご意見、ご要望があればご自由にご記入ください。(300字以内)

回答が終了した方は、最後に下記のボタンを押してください。
（データ転送に多少時間がかかる場合があります。）

データの転送

＊なお御回答頂いた結果は集計後、九州大学新キャンパス計画推進室のホームページにて公開予定（平成22年2月頃）です。

# 問 1. 所属

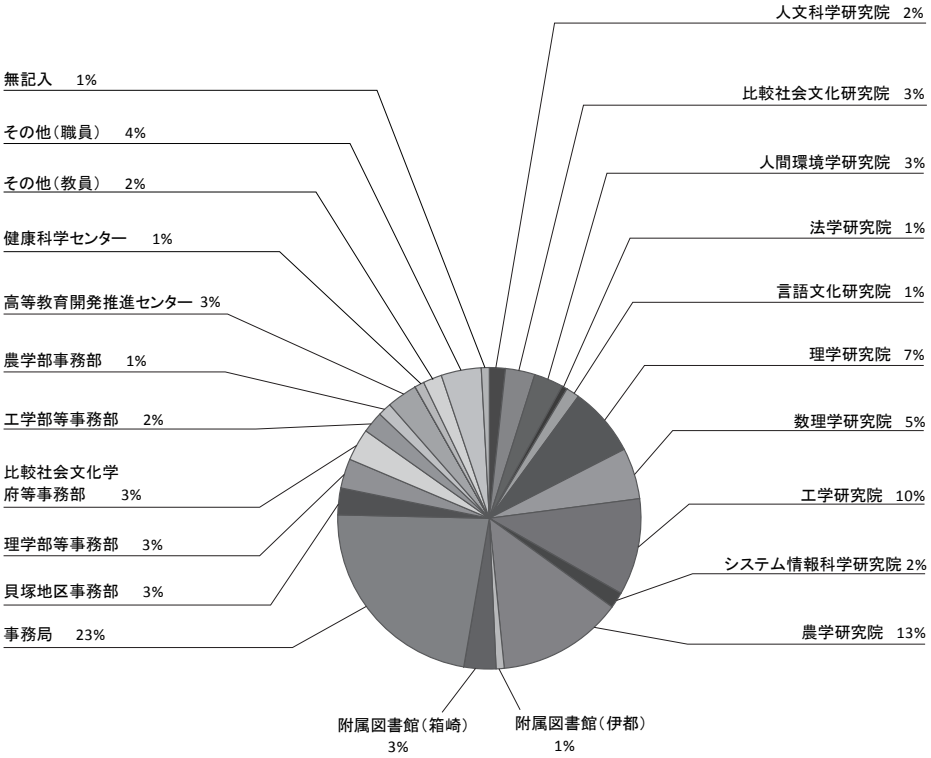
| 所属 | |
|---|---|
| 人文科学研究院 | 6 |
| 比較社会文化研究院 | 11 |
| 人間環境学研究院 | 11 |
| 法学研究院 | 2 |
| 経済学研究院 | 0 |
| 言語文化研究院 | 5 |
| 理学研究院 | 26 |
| 数理学研究院 | 19 |
| 工学研究院 | 36 |
| システム情報科学研究院 | 6 |
| 農学研究院 | 47 |
| 附属図書館（伊都） | 3 |
| 附属図書館（箱崎） | 12 |
| 情報基盤研究開発センター | 0 |
| 事務局 | 79 |
| 貝塚地区事務部 | 10 |
| 理学部等事務部 | 11 |
| 比較社会文化学府等事務部 | 12 |
| 工学部等事務部 | 8 |
| 農学部事務部 | 5 |
| 高等教育開発推進センター | 11 |
| 水素エネルギー国際研究センター | 0 |
| 未来化学創造センター | 0 |
| 稲盛フロンティア研究センター | 1 |
| 健康科学センター | 3 |
| その他（教員） | 7 |
| その他（職員） | 15 |
| 無記入 | 3 |
| 計 | 349 |

所属:その他(教員)

- 新キャンパス計画推進室
- 先導物質化学研究所
- 熱帯農学研究センター
- バイオアーキテクチャーセンター

所属:その他(職員)

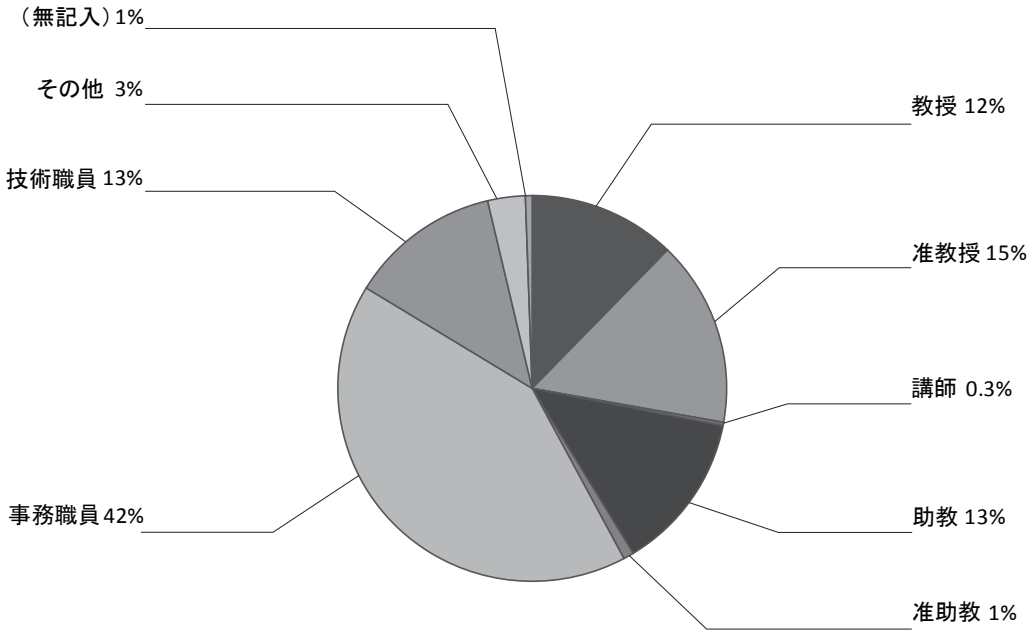
- 医系学部等事務部
- 工学府
- 総務部
- 筑紫地区事務部
- 病院事務部
- 理学部



# 問 2. 職種

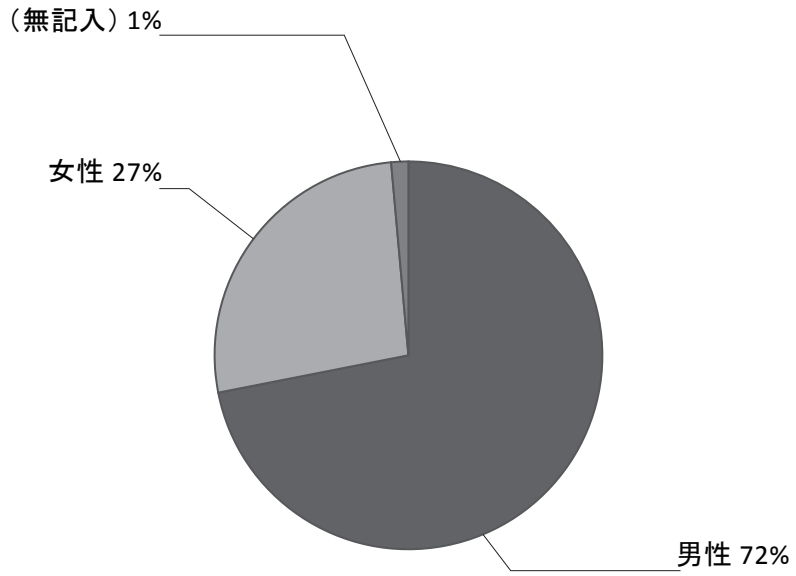
| 職種 | |
|---|---|
| 教授 | 43 |
| 准教授 | 54 |
| 講師 | 1 |
| 助教 | 46 |
| 准助教 | 3 |
| 事務職員 | 145 |
| 技術職員 | 44 |
| その他 | 11 |
| （無記入） | 2 |
| 計 | 349 |

| 職種：その他 |
|---|
| 学術研究院 |
| 外国人招へい教員 |
| 保険師 |



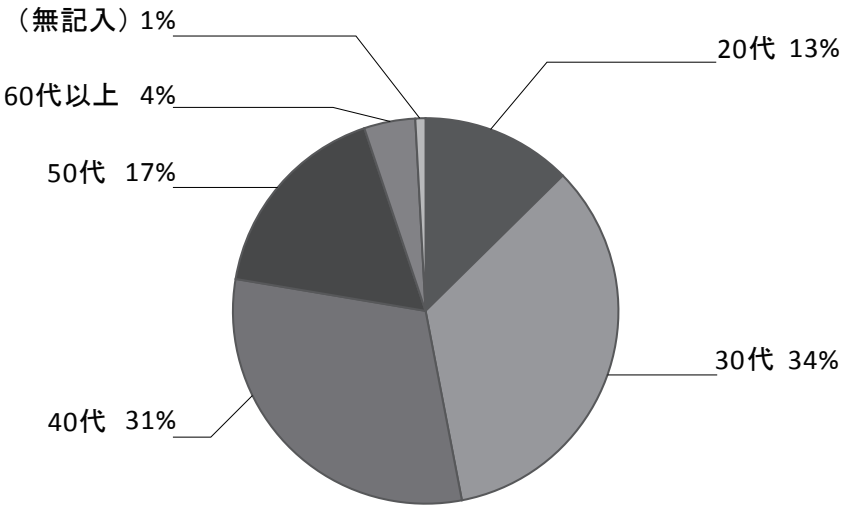
## 問 3. 性別

| 性別 | |
|---|---|
| 男性 | 251 |
| 女性 | 93 |
| （無記入） | 5 |
| 計 | 349 |




## 問 4. 年齢

| 年齢 | |
|---|---|
| 20代 | 44 |
| 30代 | 120 |
| 40代 | 107 |
| 50代 | 60 |
| 60代以上 | 15 |
| （無記入） | 3 |
| 計 | 349 |



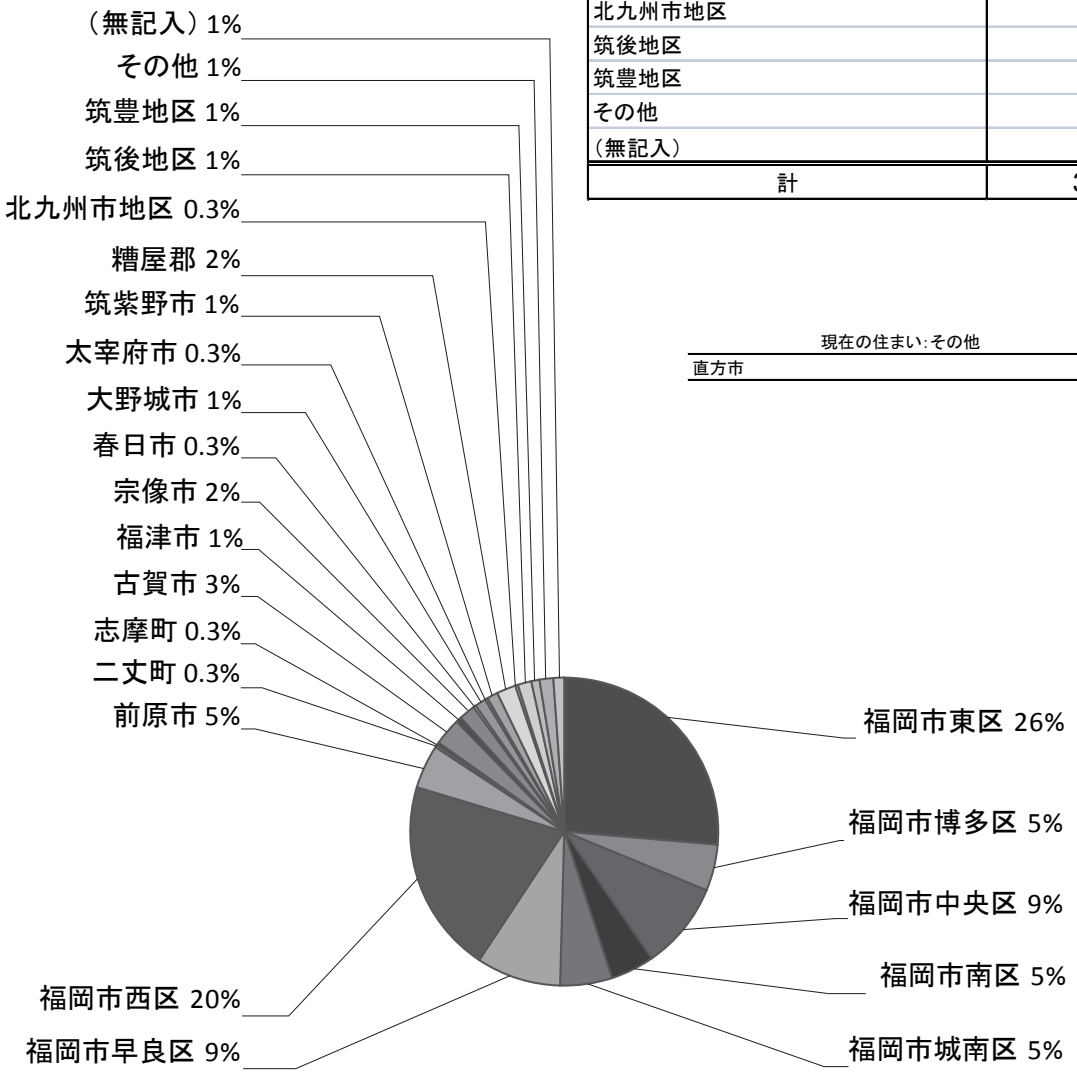
# 問 5. 住所

最も多いのは、東区 92 人（26%）であり、次いで西区 71 人（20%）、中央区 32 人（9%）、早良区 31 人（9%）である。前原市、志摩町、二丈町に注目すると、前原市が 16 人(5%)、二丈町、志摩町はいずれも 1 人（0.3%）である。

2005 年次の調査と比較すると次の傾向が見られる。
①東区で約 8%の減少。
②西区で約 7%、前原市、早良区で約 2%の増加
③志摩町、二丈町では変化なし

以上から、教職員は西区を中心としたエリアに転居していることがうかがえる。

| 現在の住まい | |
|---|---|
| 福岡市東区 | 92 |
| 福岡市博多区 | 17 |
| 福岡市中央区 | 32 |
| 福岡市南区 | 16 |
| 福岡市城南区 | 19 |
| 福岡市早良区 | 31 |
| 福岡市西区 | 71 |
| 前原市 | 16 |
| 二丈町 | 1 |
| 志摩町 | 1 |
| 古賀市 | 10 |
| 福津市 | 2 |
| 宗像市 | 6 |
| 春日市 | 1 |
| 大野城市 | 4 |
| 太宰府市 | 1 |
| 筑紫野市 | 4 |
| 糟屋郡 | 7 |
| 北九州市地区 | 1 |
| 筑後地区 | 5 |
| 筑豊地区 | 3 |
| その他 | 5 |
| （無記入） | 4 |
| 計 | 349 |




現在の住まい:その他

直方市

## 問 6. 町名（問 5 で「福岡市西区」または「前原市」を選択した回答者の居住地）

・西区で最も多いのは、小戸 14 人、姪浜 10 人である。次に多いのは田尻、内浜、愛宕浜、泉である。
・前原市では各エリア間で差はあまり見られない。

| 住まい（西区町名） | |
|---|---|
| 小戸 | 14 |
| 姪浜 | 10 |
| 田尻 | 6 |
| 内浜 | 5 |
| 愛宕浜 | 4 |
| 泉 | 4 |
| 姪浜駅南 | 2 |
| 今宿東 | 2 |
| 下山門 | 2 |
| 周船寺 | 2 |
| 徳永 | 2 |
| 飯氏 | 2 |
| 石丸 | 2 |
| 福重 | 2 |
| 横浜 | 2 |
| 愛宕 | 1 |
| 金武 | 1 |
| 今宿町 | 1 |
| 富士見 | 1 |
| 西の丘 | 1 |
| （無記入） | 5 |
| 計 | 71 |

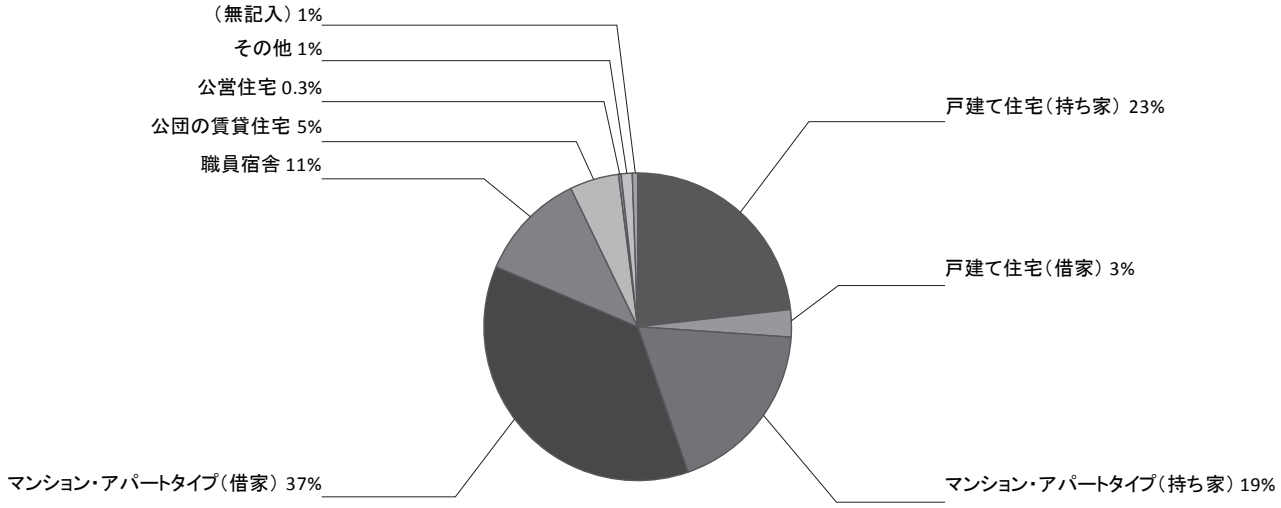
| 住まい（前原市町名） | |
|---|---|
| 南風台 | 3 |
| 波多江駅北 | 3 |
| 波多江駅南 | 2 |
| 波多江 | 2 |
| 高田 | 2 |
| 前原北 | 1 |
| 三雲 | 1 |
| 三坂 | 1 |
| 美咲が丘 | 1 |
| （無記入） | 0 |
| 計 | 16 |

# 問 7. 居住形態

・居住形態では「マンション・アパートタイプ（借家）」が 129 人（37%）と最も多く、次いで、「戸建て住宅（持ち家）」81 人（23%）、「マンション・アパートタイプ（持ち家）」65 人（19%）の順に多い。
・2005 年のデータと比較すると、「戸建て住宅（持ち家）」の割合が 10%減少している。

| 住まいのタイプ | |
|---|---|
| 戸建て住宅（持ち家） | 81 |
| 戸建て住宅（借家） | 10 |
| マンション・アパートタイプ（持ち家） | 65 |
| マンション・アパートタイプ（借家） | 129 |
| 職員宿舎 | 40 |
| 公団の賃貸住宅 | 18 |
| 公営住宅 | 1 |
| その他 | 3 |
| （無記入） | 2 |
| 計 | 349 |

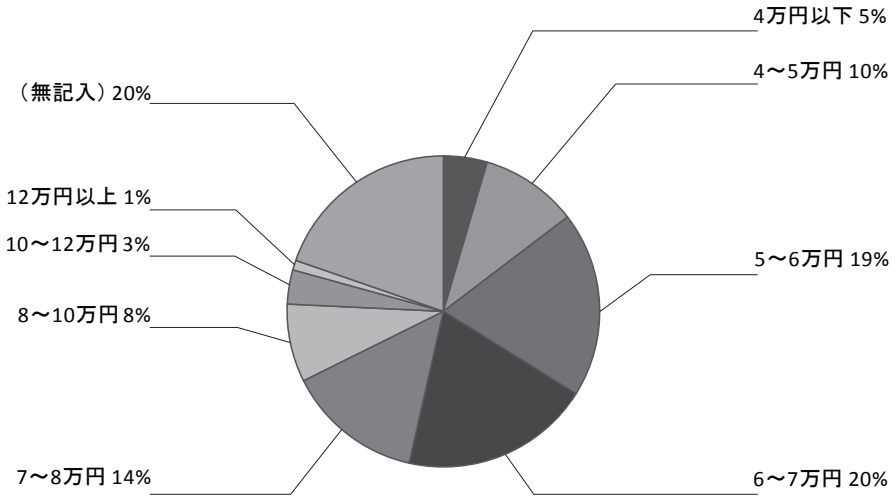
| 住まいのタイプ：その他 |
|---|
| 実家 |
| 親類の持ち家に同居 |
| 妻の実家に同居 |



## 問 8. 家賃月額（問 7 で借家を選んだ回答者の家賃月額）

家賃の月額は、5 万円台が 19%、20%とそれぞれ高い割合を示した。概ね、4 万円～ 8 万円の家賃が大半を占める。

| 借家家賃 | 住まいのタイプ | | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 戸建 | マンション | 職員宿舎 | 公団賃貸 | 公営住宅 | |
| 4万円以下 | | 4 | 4 | | 1 | 9 |
| 4～5万円 | 4 | 16 | | | | 20 |
| 5～6万円 | | 36 | | 2 | | 38 |
| 6～7万円 | | 33 | | 6 | | 39 |
| 7～8万円 | 2 | 22 | | 4 | | 28 |
| 8～10万円 | 3 | 11 | | 2 | | 16 |
| 10～12万円 | | 5 | | 2 | | 7 |
| 12万円以上 | | 2 | | | | 2 |
| （無記入） | 1 | | 36 | 2 | | 39 |
| 計 | 10 | 129 | 40 | 18 | 1 | 198 |

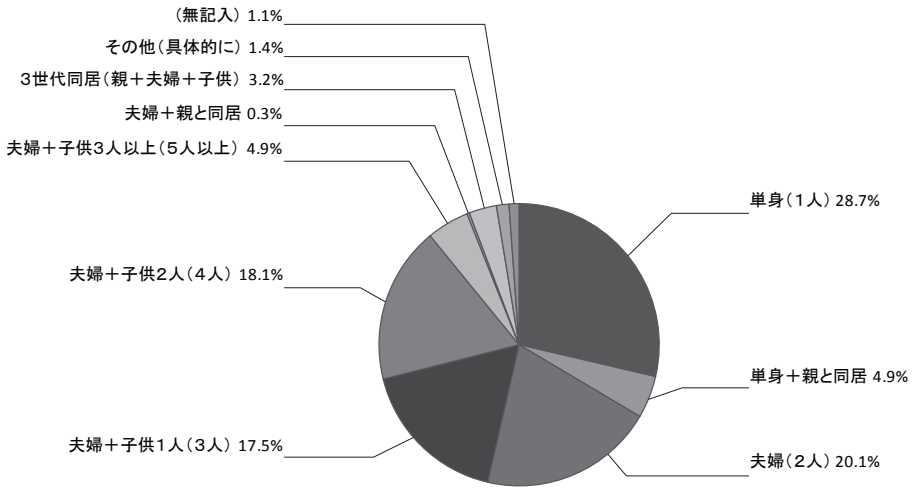


# 問 9. 家族構成

| 世帯構成 | |
|---|---|
| 単身（1人） | 100 |
| 単身＋親と同居 | 17 |
| 夫婦（2人） | 70 |
| 夫婦＋子供1人（3人） | 61 |
| 夫婦＋子供2人（4人） | 63 |
| 夫婦＋子供3人以上（5人以上） | 17 |
| 夫婦＋親と同居 | 1 |
| 3世代同居（親＋夫婦＋子供） | 11 |
| その他（具体的に） | 5 |
| （無記入） | 4 |
| 計 | 349 |

家族構成は「単身（1 人）」が最も多い。次いで、「夫婦（2 人）」、「夫婦＋子供 1 人」、「夫婦＋子供 2 人」が多く、家族構成はバライエティに富むに富む。子供 3 人以上の世帯は少ない。2005 調査との間に差は見られない。

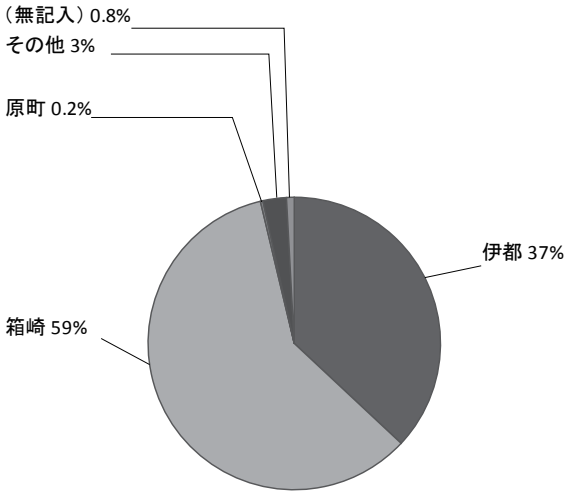
| 世帯構成：その他 |
|---|
| 単身＋子供1人 |
| 単身＋子ども（2人） |
| 親＋子供＋孫 |
| 親＋兄弟＋姪 |
| 妹と同居 |




# 問 10. 現在の勤務場所

現在の勤務場所は、箱崎（59%）、伊都（37%）の 2 つが大きく占めている。

| 勤務場所 | |
|---|---|
| 伊都 | 129 |
| 箱崎 | 207 |
| 原町 | 1 |
| その他 | 9 |
| （無記入） | 3 |
| 計 | 349 |

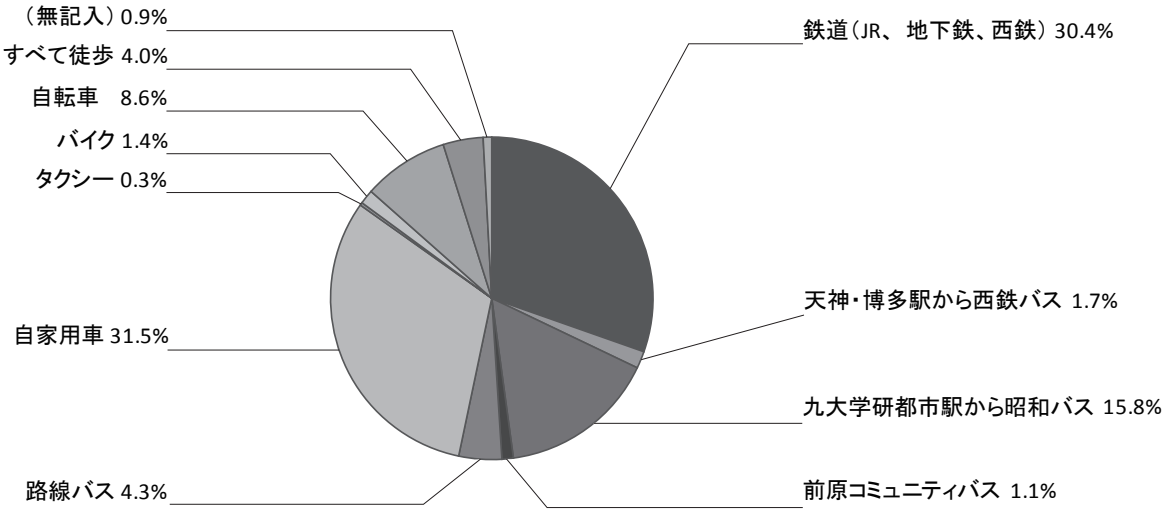



| 勤務場所：その他 |
|---|
| 病院 |
| 筑紫 |
| 大橋 |

# 問 11. 現在の交通手段

交通手段についてみると、自家用車が 31.5%と最も多く、次いで鉄道の 30.4%が多い。2005 年の調査を比較すると、自家用車は約 8%の増加、鉄道は約 6%の減少が見られ、交通手段が自家用車に移行していることがうかがえる。
伊都キャンパスでは、「九州学研都市から昭和バス」及び「自家用車」の使用者が多い。

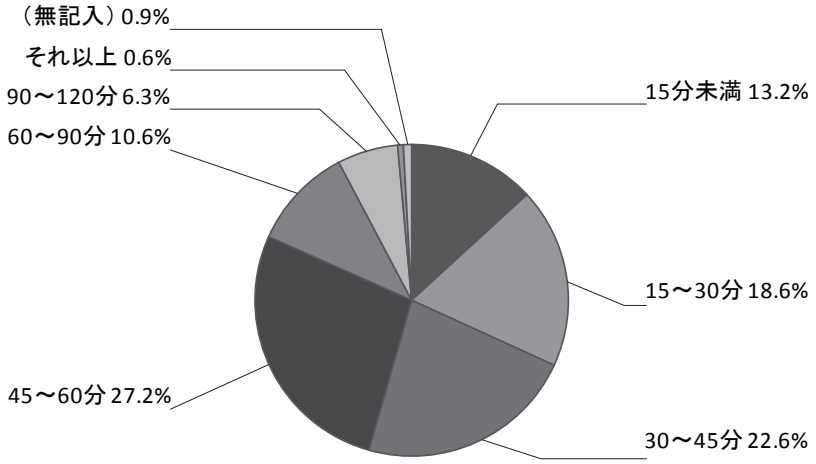
| 最後の交通手段 | 伊都 | 伊都以外 | 計 |
|---|---|---|---|
| 鉄道（JR、地下鉄、西鉄） | 7 | 99 | 106 |
| 天神・博多駅から西鉄バス | 4 | 2 | 6 |
| 九大学研都市駅から昭和バス | 55 | 0 | 55 |
| 前原コミュニティバス | 4 | 0 | 4 |
| 路線バス | 6 | 9 | 15 |
| 自家用車 | 48 | 62 | 110 |
| タクシー | 1 | 0 | 1 |
| バイク | 2 | 3 | 5 |
| 自転車 | 2 | 28 | 30 |
| すべて徒歩 | 0 | 14 | 14 |
| （無記入） | 0 | 3 | 3 |
| 計 | 129 | 220 | 349 |



# 問 12. 通勤所要時間

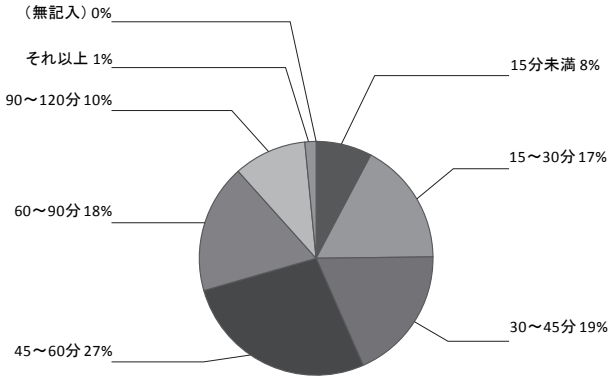
・通勤所要時間にはばらつきが見られ、概ね 60 分圏内に 81.6%の教職員が居住している。
・しかし、伊都の教職員をみると「60 ～ 90 分」が 18%、「90 ～ 120 分」が 10%と、60 分圏外に居住する教職員も多く見られる。

| 通勤時間 | 伊都 | 伊都以外 | 計 |
|---|---|---|---|
| 15分未満 | 10 | 36 | 46 |
| 15～30分 | 22 | 43 | 65 |
| 30～45分 | 24 | 55 | 79 |
| 45～60分 | 35 | 60 | 95 |
| 60～90分 | 23 | 14 | 37 |
| 90～120分 | 13 | 9 | 22 |
| それ以上 | 2 | 0 | 2 |
| （無記入） | 0 | 3 | 3 |
| 計 | 129 | 220 | 349 |

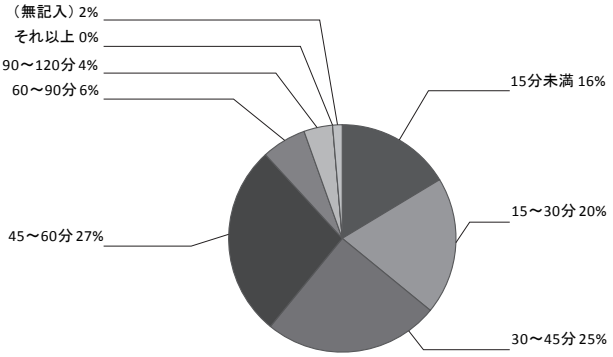



教職員全体

通勤時間:それ以上
150分




勤務先：伊都



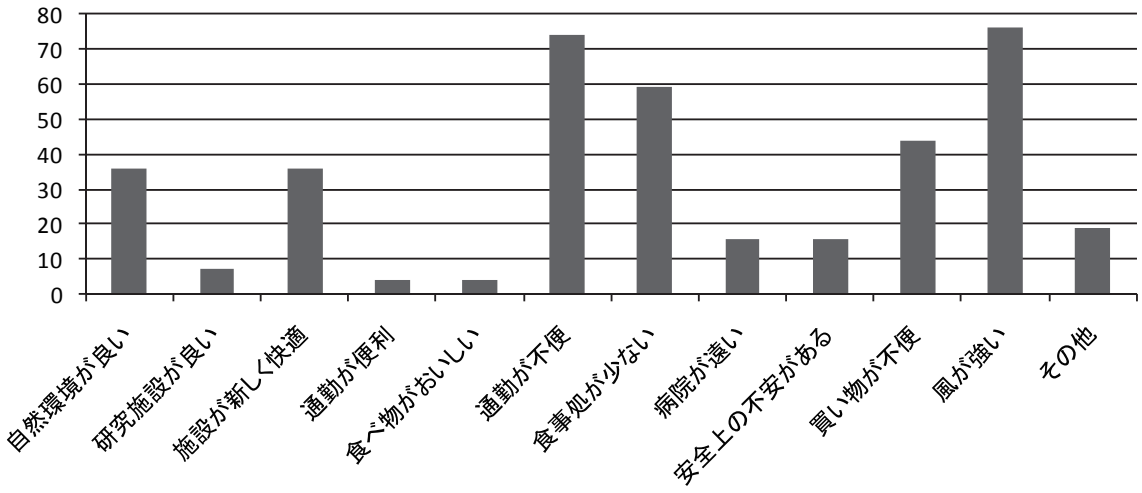

勤務先：伊都以外

## 問 13. 新キャンパスの職場環境（問１０で「伊都」を選んだ回答者のみ、複数回答可）

職場環境の意見が多かった項目は「風が強い」（76 件）、「通勤が不便」（74 件）、「食事処が少ない」（59 件）、「買い物が不便」（44 件）であったが、一方で、「自然環境が良い」（36 件）、「施設が新しく快適」（36 件）などの意見も挙げられた。

| 新キャンパスの職場環境 | |
|---|---|
| 自然環境が良い | 36 |
| 研究施設が良い | 7 |
| 施設が新しく快適 | 36 |
| 通勤が便利 | 4 |
| 食べ物がおいしい | 4 |
| 通勤が不便 | 74 |
| 食事処が少ない | 59 |
| 病院が遠い | 16 |
| 安全上の不安がある | 16 |
| 買い物が不便 | 44 |
| 風が強い | 76 |
| その他 | 19 |

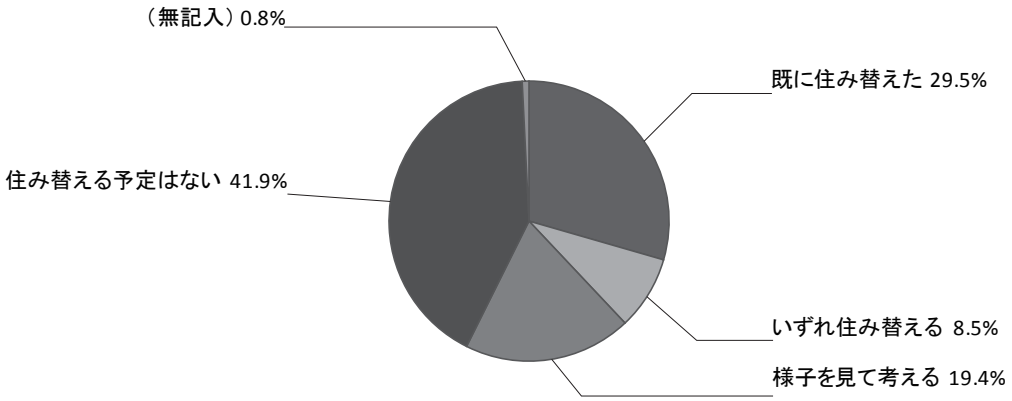
| 新キャンパスの職場環境：その他（抜粋） |
|---|
| 窓口業務の可能な郵便局、銀行が遠い |
| 各種店舗が近隣にない |
| 業者の対応が遅くなる |
| 機能を集中させることによって効率的なこともあるが非効率である場合も多い。 |
| 施設の不具合等が後手後手の対応 |
| 職場環境が狭く悪い |
| 本屋が小さい |
| 職員・学生数から比してATMの台数が少ない |
| 毎日の運転に疲れたあげく、遠方の駐車場からの徒歩通勤で毎朝、気分が低下する最悪の環境 |
| 他のキャンパスに行かなければならない用事が多すぎる。早く全面移転を完了して欲しい。 |
| JR筑肥線の遅延が多い。バス・JRが混んでいる。学生・職員のマナーが良くない。 |
| 入構車両が多すぎる |



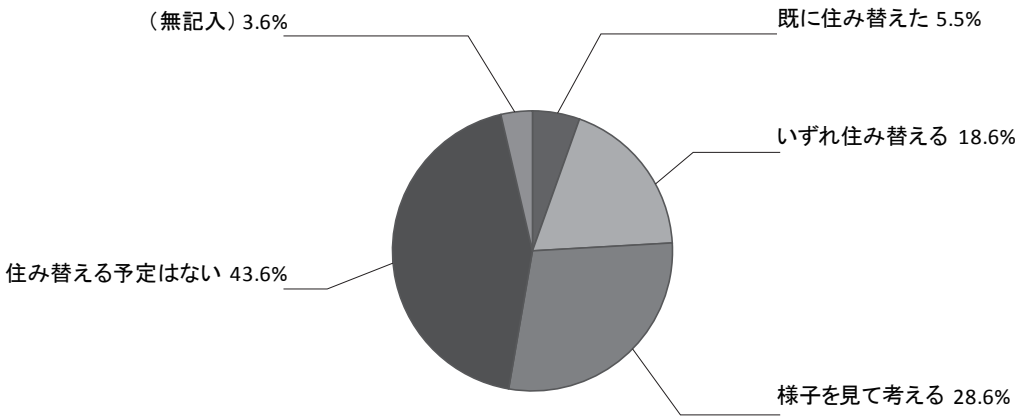
# 問 14. キャンパス移転に伴い、住居をどうするか

・伊都の教職員についてみると、「既に住み替えた」が 29.5%、「いずれ住み替える」が 8.5%、「様子を見て住み替える」が 19.4%を占める。しかし、「住み替える予定はない」が 41.9%と半数近くを占めている。
・伊都以外の教職員についても半数が、住み替える意思がないことが分かる。

| キャンパス移転に伴う居住移転について | 勤務地 | | | | | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 伊都 | 箱崎 | 病院 | 筑紫 | 原町 | 大橋 | その他 | （無記入） | |
| 既に住み替えた | 38 | 12 | | | | | | | 50 |
| いずれ住み替える | 11 | 41 | | | | | | | 52 |
| 様子を見て考える | 25 | 58 | 2 | 1 | 1 | | 1 | | 88 |
| 住み替える予定はない | 54 | 91 | 3 | 1 | | 1 | | | 150 |
| （無記入） | 1 | 5 | | | | | | 3 | 9 |
| 計 | 129 | 207 | 5 | 2 | 1 | 1 | 1 | 3 | 349 |




勤務先：伊都



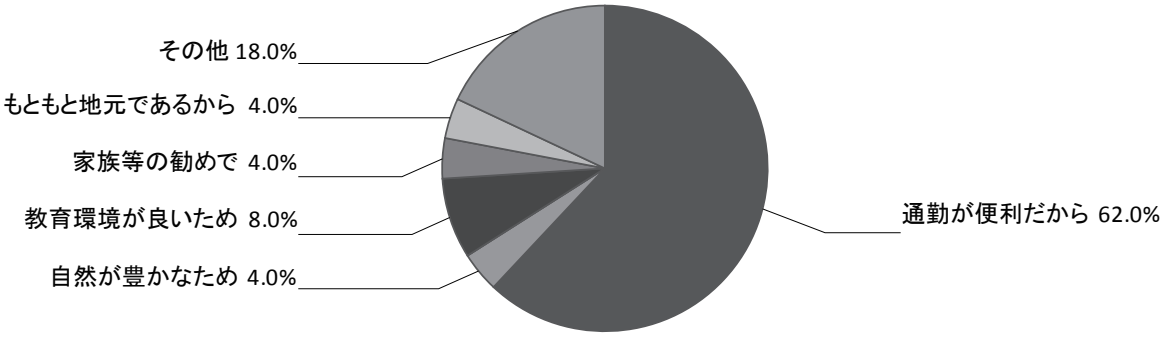

勤務先：伊都以外

## 問 15. 住み替えた理由（問 14 で「既に住み替えた」を選んだ回答者のみ）

住み替えた理由では、「通勤が便利だから」（62.0%）がほとんどを占めている。

| 住み替え理由 | |
|---|---|
| 通勤が便利だから | 31 |
| 自然が豊かなため | 2 |
| 食べ物がおいしいため | 0 |
| 教育環境が良いため | 4 |
| 家族等の勧めで | 2 |
| もともと地元であるから | 2 |
| その他 | 9 |
| 計 | 50 |

| 住み替えの理由:その他 |
|---|
| 移転後に赴任した |
| 家屋が老朽化したため |
| 転勤のため宿舎に入居。 |
| 実家から通勤出来る距離ではなかったから。 |
| 職員宿舎を選択したため |
| いい物件だったから |
| 以前は六本松に住んでいたが移転に伴い赤坂に転居. 伊都と箱崎の両方で授業があるため. 六本松に住んでいた教員には交通の利便性から伊都ではなく赤坂周辺に転居したものが多い. |
| 地下鉄箱崎線から空港線JR筑肥線への乗り換えに疲れた。箱崎の治安に不安がある。 |
| 家を購入した時には、数年後に移転する予定だったため。当てがはずれた。 |
| それまでの住所では伊都までの通勤が2時間近くかかったため少しでもましたところに、しかし他キャンパスや都心にも近いところに |

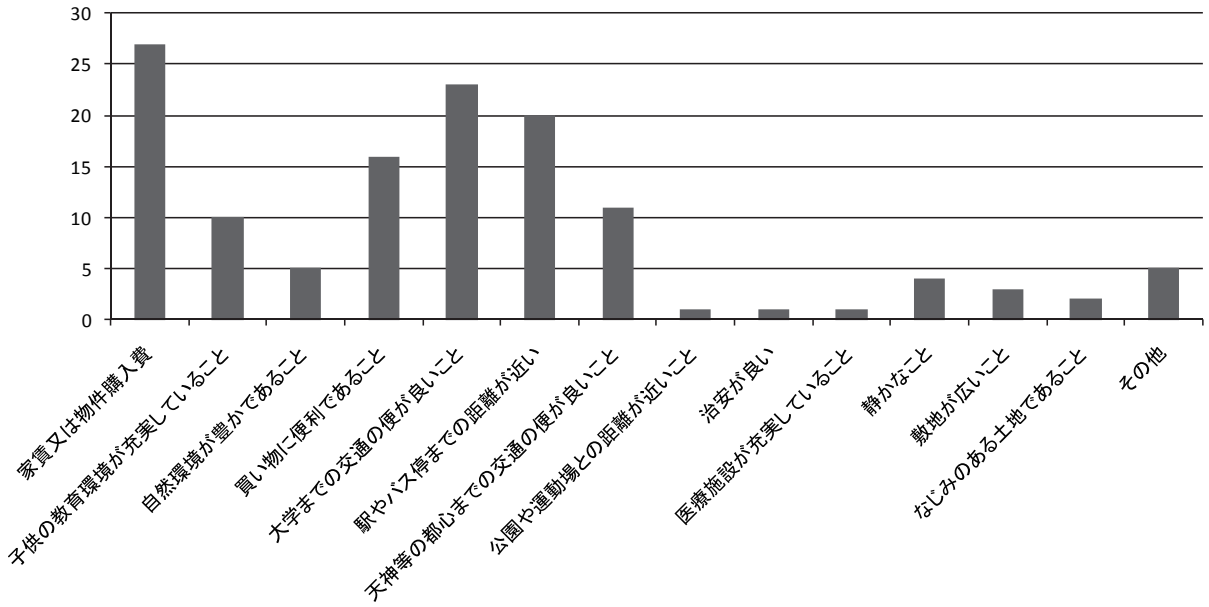


## 問 16. 住居を選ぶ際の重要事項（問 14 で「既に住み替えた」を選んだ回答者のみ、3 つ以内を選択）

・「家賃又は物件購入費」（27 件）が最も多く挙げられている。
・次いで、「大学までの交通の便が良いこと」（23 件）、「駅やバス停までの距離が近い」（20 件）が多く見られ、交通環境について重視していることがうかがえる。

| 住居選択時に重要視したこと | |
|---|---|
| 家賃又は物件購入費 | 27 |
| 子供の教育環境が充実していること | 10 |
| 自然環境が豊かであること | 5 |
| 買い物に便利であること | 16 |
| 大学までの交通の便が良いこと | 23 |
| 駅やバス停までの距離が近い | 20 |
| 天神等の都心までの交通の便が良いこと | 11 |
| 公園や運動場との距離が近いこと | 1 |
| 治安が良い | 1 |
| 医療施設が充実していること | 1 |
| 静かなこと | 4 |
| 敷地が広いこと | 3 |
| なじみのある土地であること | 2 |
| その他 | 5 |

| 住居選択時に重要視したこと：その他 |
|---|
| 実家に近いこと |
| 伊都まで一番近い宿舎だった。 |
| 職員宿舎なので、特にない |
| 職場と駅，バス停等に比較的近いこと |
| 伊都および他キャンパス（特に箱崎）へのアクセス |



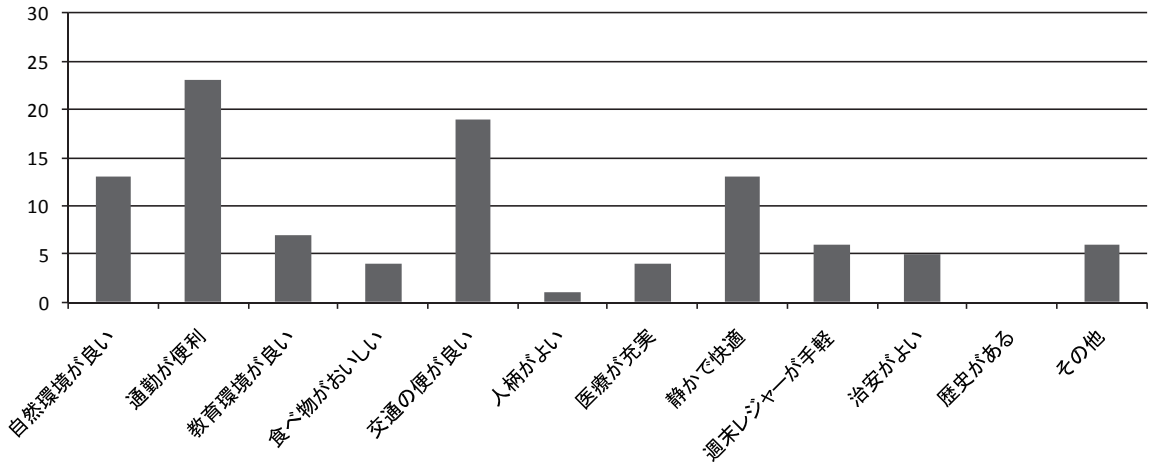
# 問 17. 住み替えて良かったと思うこと

（問 14 で「既に住み替えた」を選んだ回答者のみ、3 つ以内を選択）

・住み替えて良かったと思うことでは、「通勤が便利」（23 件）が最も多く、次いで「交通の便が良い」（19 件）が挙げられている。大学の周辺に住み替え、通勤が快適になったことがうかがえる。
・その他では、「自然環境が良い」（13 件）、「静かで快適」（13 件）が挙げられ、伊都キャンパス周辺の環境ならではの項目も評価されている。

| 住み替えてよかったこと | |
|---|---|
| 自然環境が良い | 13 |
| 通勤が便利 | 23 |
| 教育環境が良い | 7 |
| 食べ物がおいしい | 4 |
| 交通の便が良い | 19 |
| 人柄がよい | 1 |
| 医療が充実 | 4 |
| 静かで快適 | 13 |
| 週末レジャーが手軽 | 6 |
| 治安がよい | 5 |
| 歴史がある | 0 |
| その他 | 6 |

| 住み替えてよかったこと：その他 |
|---|
| 実家が近い |
| 家賃の割に部屋が広い。 |
| 買い物に便利である |
| 海が近い |
| 買い物等に不自由しない |
| 図書館、博物館、映画館等文化施設へのアクセスがよい |

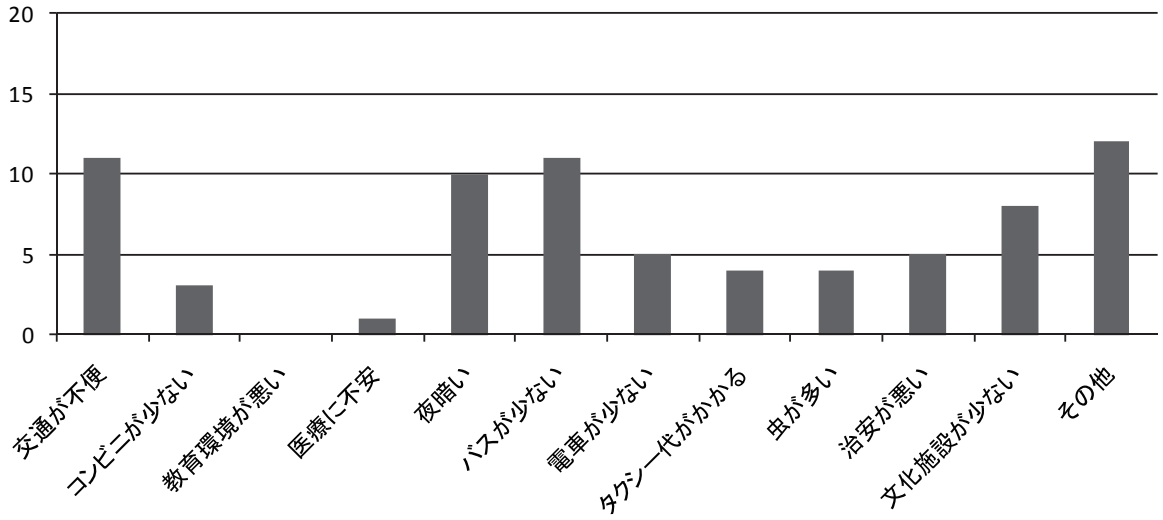


## 問 18. 住環境に関する不満（問 14 で「既に住み替えた」を選んだ回答者のみ、3 つ以内を選択）

・「交通が不便」（11 件）、「バスが少ない」（11 件）など、交通関係の項目が挙げられている。
・交通環境の他、生活環境、利便性、治安に関する不満など、回答にはばらつきが見られる。

| 住環境への不満 | |
|---|---|
| 交通が不便 | 11 |
| コンビニが少ない | 3 |
| 教育環境が悪い | 0 |
| 医療に不安 | 1 |
| 夜暗い | 10 |
| バスが少ない | 11 |
| 電車が少ない | 5 |
| タクシー代がかかる | 4 |
| 虫が多い | 4 |
| 治安が悪い | 5 |
| 文化施設が少ない | 8 |
| その他 | 12 |

| 住環境への不満：その他（抜粋） |
|---|
| 前原市は水道料金が高い、幼稚園保育料も福岡市に比べ高い |
| 小さな子供を遊ばせられるような公園が近くにない |
| 都心へのアクセスがいい分、土地家屋の価格が高い |
| 近くに映画館がない |
| バスの時刻が決まっているので帰りの時間が制限される |
| 職場（箱崎キャンパス）が遠い |
| JR・地下鉄内でのマナーは、相変わらず良くない。 |
| 畜産ふん尿のにおい |

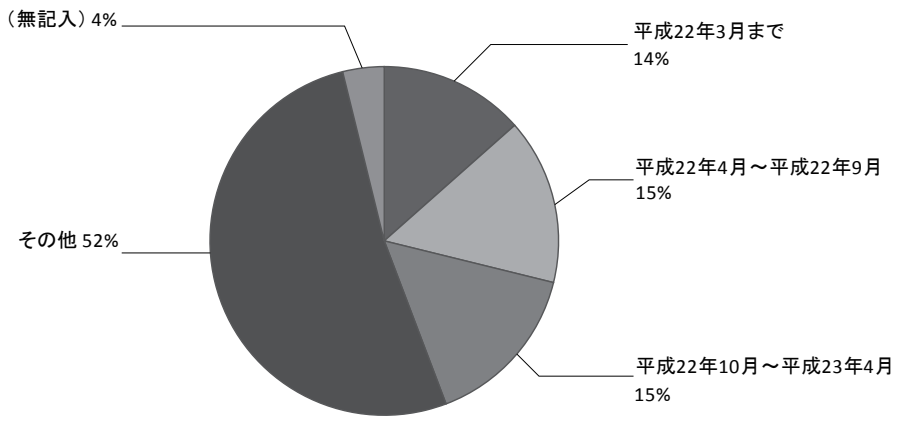


## 問 19. 予定転居時期（問 14 で「いずれ住み替える」を選んだ回答者のみ）

「いずれ住み替える」と回答した教職員のうち、44%が平成 23 年 4 月までに住み替えを実施予定である。しかし、「その他」（52%）のうち、未定の回答は 1 件のみであり、それ以降に住み替えを予定している教職員も多い。

| 予定転居時期 | |
|---|---|
| 平成22年3月まで | 7 |
| 平成22年4月～平成22年9月 | 8 |
| 平成22年10月～平成23年4月 | 8 |
| その他 | 27 |
| （無記入） | 2 |
| 計 | 52 |

| 予定転居時期：その他 | （件数） |
|---|---|
| 平成23年 | 2 |
| 平成24年 | 4 |
| 平成25年 | 4 |
| 平成26年 | 3 |
| 平成27年 | 4 |
| 平成28年 | 1 |
| 平成30年 | 2 |
| 平成31年 | 2 |
| 平成32年 | 1 |
| 未定 | 1 |

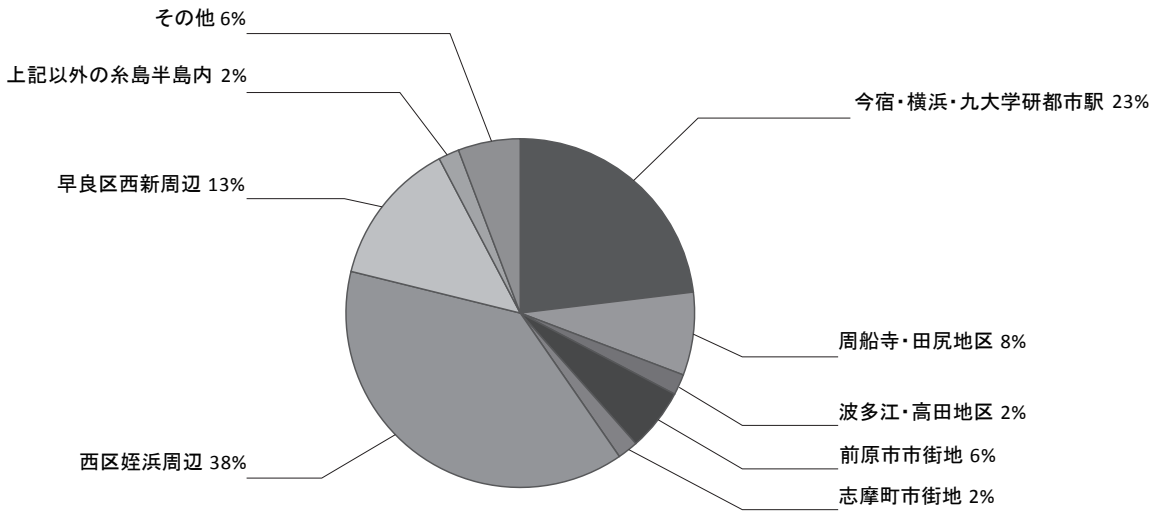


## 問 20. 予定転居先住所（問 14 で「いずれ住み替える」を選んだ回答者のみ）

「西区姪浜周辺」（38%）が最も多く、次いで、「今宿・横浜・九州大学学研都市駅」（23%）、「早良区西新周辺」（13%）が挙げられおり、多くの教職員が鉄道駅周辺の地域を転居先予定している。

| 予定転居先住所 | |
|---|---|
| 今宿･横浜･九大学研都市駅 | 12 |
| 周船寺･田尻地区 | 4 |
| 波多江･高田地区 | 1 |
| 前原市市街地 | 3 |
| 志摩町市街地 | 1 |
| 二丈町 | 0 |
| 西区姪浜周辺 | 20 |
| 早良区西新周辺 | 7 |
| 上記以外の糸島半島内 | 1 |
| その他 | 3 |
| 計 | 52 |

| 予定転居先住所:その他 |
|---|
| 城南区別府 |
| 福岡市東区 |
| 唐人町 |



# 問 21. 転居先決定の際の重要事項

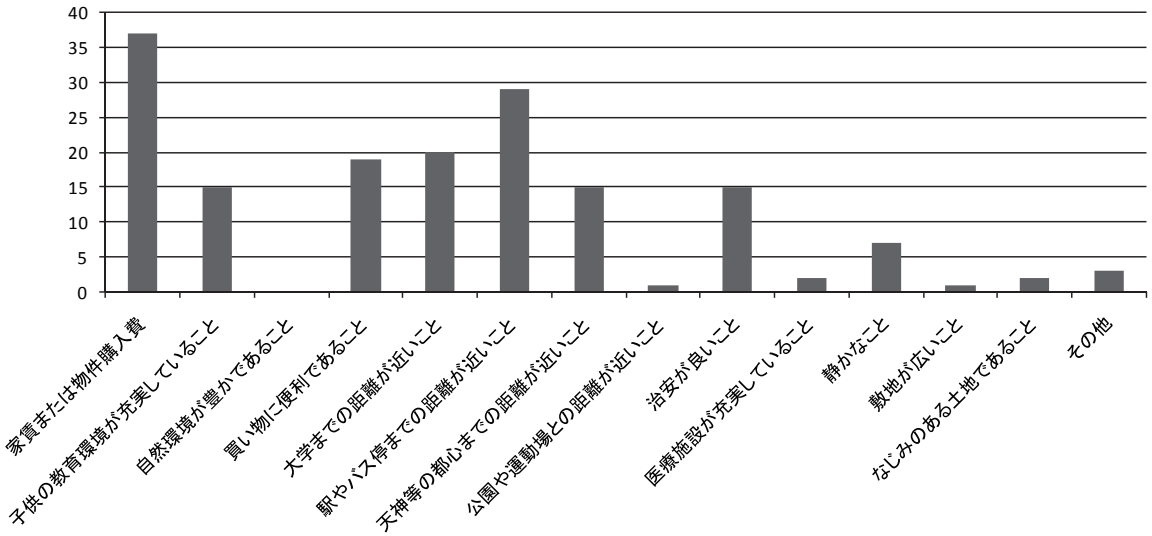
（問 14 で「いずれ住み替える」を選んだ回答者のみ、3 つ以内を選択）

・「既に住み替えた者が住み替えに当たって重要視した項目」と基本的に傾向は同様。「家賃」が 1 位、「交通環境」、「利便性」に関する項目が多い。

・しかし、転居予定者の方が、「自然環境が豊かであること」、「治安が良いこと」を若干多く挙げている。

| 転居先選定の重要点 | |
|---|---|
| 家賃または物件購入費 | 37 |
| 子供の教育環境が充実していること | 15 |
| 自然環境が豊かであること | 0 |
| 買い物に便利であること | 19 |
| 大学までの距離が近いこと | 20 |
| 駅やバス停までの距離が近いこと | 29 |
| 天神等の都心までの距離が近いこと | 15 |
| 公園や運動場との距離が近いこと | 1 |
| 治安が良いこと | 15 |
| 医療施設が充実していること | 2 |
| 静かなこと | 7 |
| 敷地が広いこと | 1 |
| なじみのある土地であること | 2 |
| その他 | 3 |

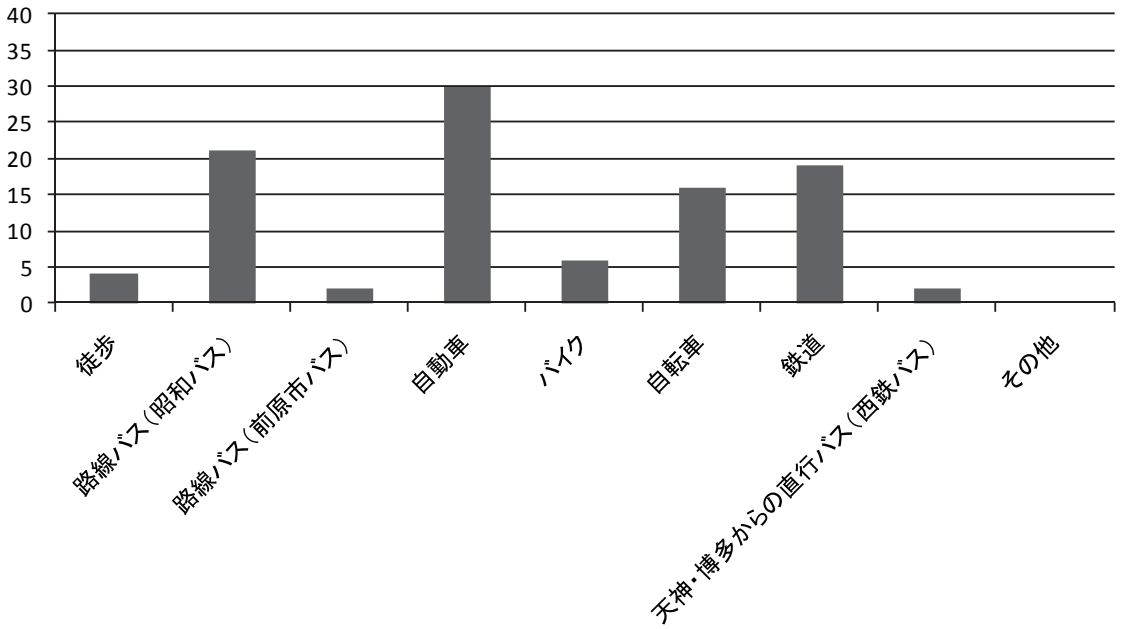
| 転居先選定の重要点：その他 |
|---|
| 周囲の施設が調っていること |
| 子供の高校の学区内であること |
| 大学と適度に離れていること |



## 問 22. 希望する通勤方法（問 14 で「いずれ住み替える」を選んだ回答者のみ、複数回答可）

・自動車が最も多く挙げられる。
・次いで、昭和バスと鉄道も多く挙げられている。

| 転居先からの通勤方法希望 | |
|---|---|
| 徒歩 | 4 |
| 路線バス（昭和バス） | 21 |
| 路線バス（前原市バス） | 2 |
| 自動車 | 30 |
| バイク | 6 |
| 自転車 | 16 |
| 鉄道 | 19 |
| 天神・博多からの直行バス（西鉄バス） | 2 |
| その他 | 0 |

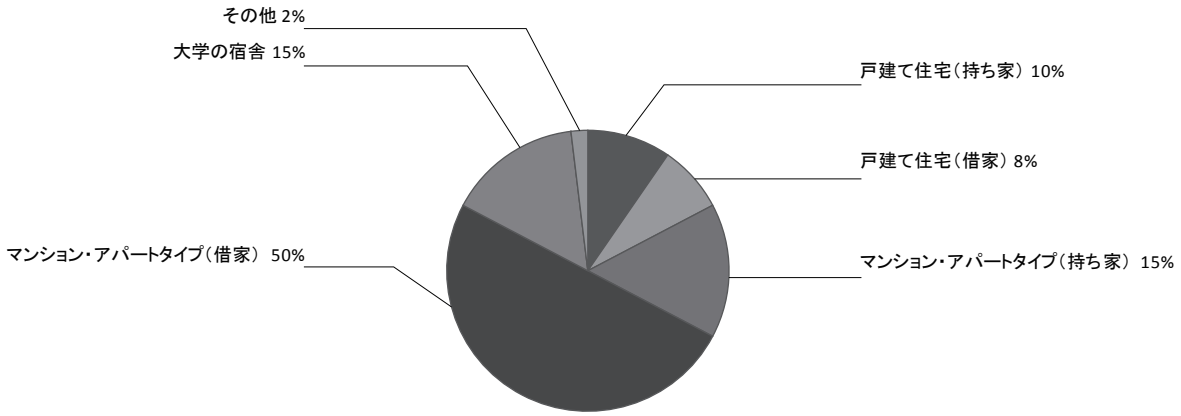


# 問 23. 希望する居住形態（問 14 で「いずれ住み替える」を選んだ回答者のみ）

・マンション・アパートタイプ（借家）が半数を占め、次いで、マンション・アパートタイプ（持ち家）が 15%で多い。
・2005 年度調査のデータ比較しても傾向に差は見られない。

| 転居する場合の住宅形態の希望 | |
|---|---|
| 戸建て住宅（持ち家） | 5 |
| 戸建て住宅（借家） | 4 |
| マンション・アパートタイプ（持ち家） | 8 |
| マンション・アパートタイプ（借家） | 26 |
| 大学の宿舎 | 8 |
| 定期借地 | 0 |
| その他 | 1 |

| 転居する場合の住宅形態の希望：その他 |
|---|
| 実家 |

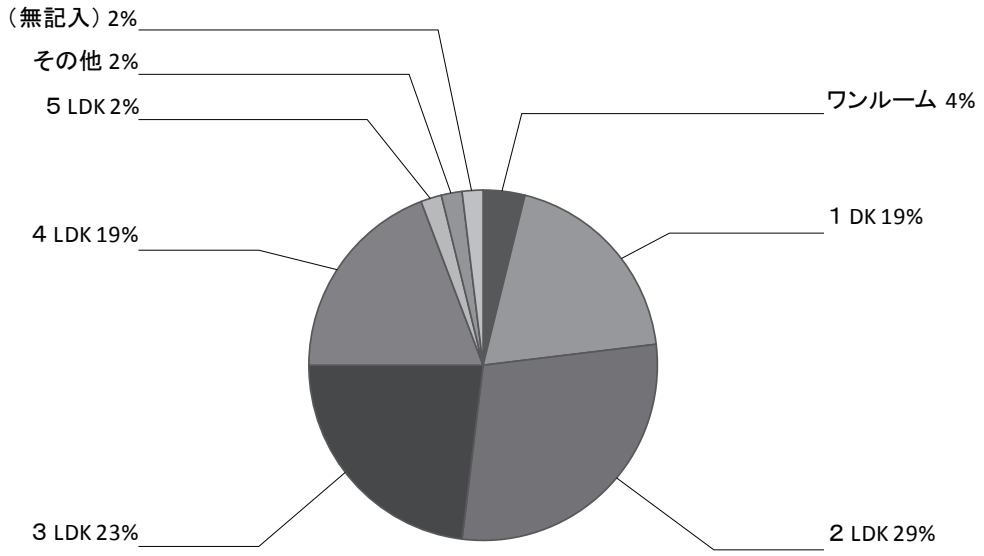


## 問 24. 希望する住居の広さ（問 14 で「いずれ住み替える」を選んだ回答者のみ）

・ 1 DK ～ 4DK の間でばらつきが見られる。
・2005 年度調査のデータ比較しても傾向に差は見られない。

| 広さの希望 | |
|---|---|
| ワンルーム | 2 |
| 1DK | 10 |
| 2LDK | 15 |
| 3LDK | 12 |
| 4LDK | 10 |
| 5LDK | 1 |
| その他 | 1 |
| （無記入） | 1 |
| 計 | 52 |

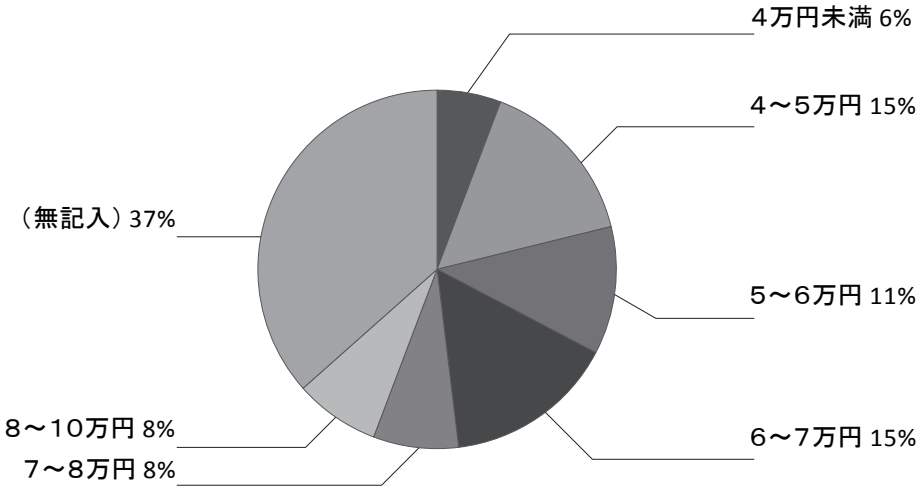
| 広さの希望：その他 |
|---|
| 1LDK |



## 問 25. 希望する家賃月額（問 23 で「借家」を選んだ回答者のみ）

・家賃にはばらつきが見られる。

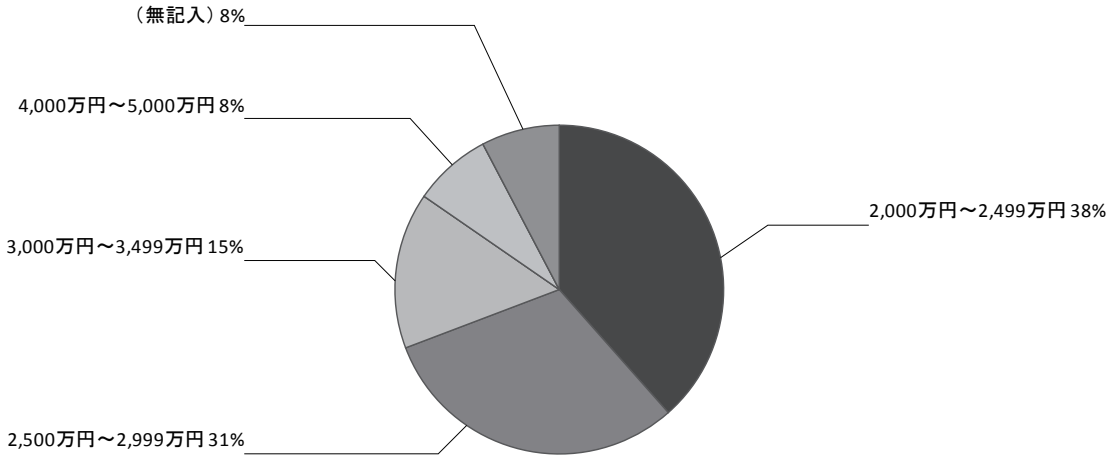
| 家賃月額の希望 | 希望する居住形態 | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 戸建て住宅 | マンション | 大学の宿舎 | その他 | |
| 4万円未満 | | 2 | 1 | | 3 |
| 4～5万円 | | 8 | | | 8 |
| 5～6万円 | | 5 | 1 | | 6 |
| 6～7万円 | | 7 | 1 | | 8 |
| 7～8万円 | 1 | 3 | | | 4 |
| 8～10万円 | 2 | 2 | | | 4 |
| 10～12万円 | | | | | |
| 12万円以上 | | | | | |
| （無記入） | 6 | 7 | 5 | 1 | 19 |
| 計 | 9 | 34 | 8 | 1 | 52 |



## 問 26. 希望する土地建物購入費（問 23 で「持ち家」を選んだ回答者のみ）

・概ね、2,000 万円～ 2,999 万円を希望している。

| 土地建物の購入費用の希望 | 戸建て住宅 | マンション | 計 |
|---|---|---|---|
| 999万円以下 | | | 0 |
| 1,000万円～1,499万円 | | | 0 |
| 1,500万円～1,999万円 | | | 0 |
| 2,000万円～2,499万円 | 1 | 4 | 5 |
| 2,500万円～2,999万円 | 3 | 1 | 4 |
| 3,000万円～3,499万円 | 1 | 1 | 2 |
| 3,500万円～3,999万円 | | | 0 |
| 4,000万円～5,000万円 | | 1 | 1 |
| その他 | | | 0 |
| （無記入） | | 1 | 1 |
| 計 | 5 | 8 | 13 |



# 問 27. 住み替えを「様子を見て考える」及び「住み替える予定はない」理由

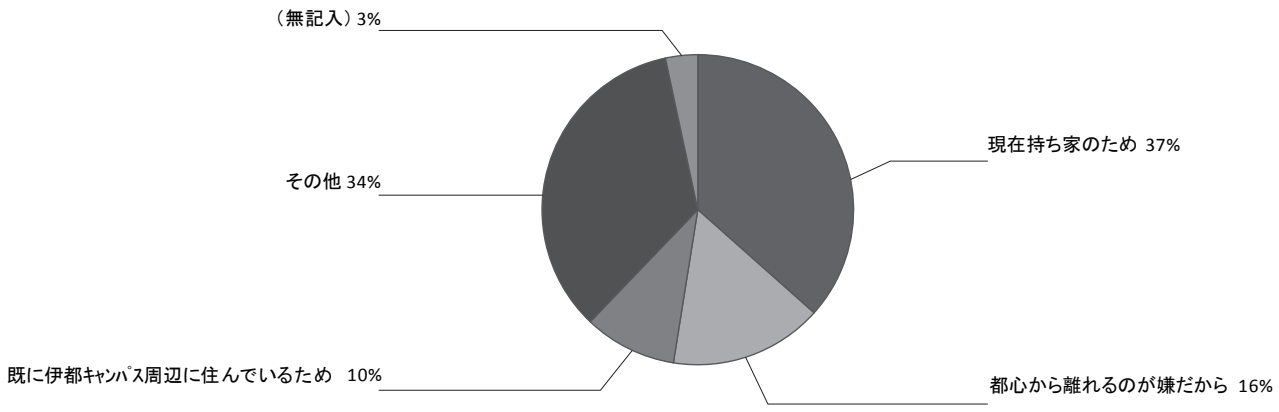
（問 14 で「様子を見て考える」・「住み替える予定はない」を選んだ回答者のみ）

・「持ち家のため」（37%）、「都心から離れるのは嫌だから」（16%）が多い。

| 理由 | 様子を見て考える | 住み替える予定はない | 計 |
|---|---|---|---|
| 現在持ち家のため | 15 | 72 | 87 |
| 都心から離れるのが嫌だから | 20 | 18 | 38 |
| 既に伊都ｷｬﾝﾊﾟｽ周辺に住んでいるため | 5 | 18 | 23 |
| その他 | 44 | 38 | 82 |
| （無記入） | 4 | 4 | 8 |
| 計 | 88 | 150 | 238 |

「様子を見て考える」・「住み替える予定はない」理由：その他（抜粋）

| |
|---|
| 伊都周辺に引っ越すと、子どもの生活環境も全て変わるため |
| 配偶者の仕事の都合 |
| 近くにいる親の面倒を見ているため |
| 現在の居住地の生活環境が良好なので |
| 金銭的な理由 |
| 職員宿舎が利用可能になるのを待つ |
| 今住んでいる場所から通勤できるため |
| 事務職員なので移転完了までは異動があり、ずっと伊都キャンパス勤務というわけではないので。 |
| 近いうちに他大学へ異動する可能性が高いため |
| 移転まで時間があるので |
| 退職が先で、伊都に勤務する予定がない。 |
| 手間と費用を掛けて住み替えるメリットがない |
| キャンパス周辺は交通の便が悪く、スーパーなどが少ないので住みにくいから。 |
| 条件のいい場所がないため |
| 今でも箱崎まで1時間以上かかっているのに、伊都になったら2時間以上になってしまう。子どもの世話もしないといけないが、通勤が苦になるようなら、単身赴任も考えざるをえない。 |
| 兼業農家であり、実家から遠くには住めないため。 |
| 時間帯によっては通勤時間が長くなるため |
| 自宅購入を検討中のため（時期未定） |
| 現在の居住地付近に実家があり、将来的にそこを引き継ぐ予定。 |
| 住居場所を決めるにあたっては職場以外の要素も考慮に入れているため |
| 伊都周辺の住居環境や住居事情等がわからないから |
| 移転の話が持ち上がった時、まだ家を建てていなかったので、西区への移動を考えたが、具体的な話が遅々として進まなかったので、あきらめて東区に家を建てた。 |



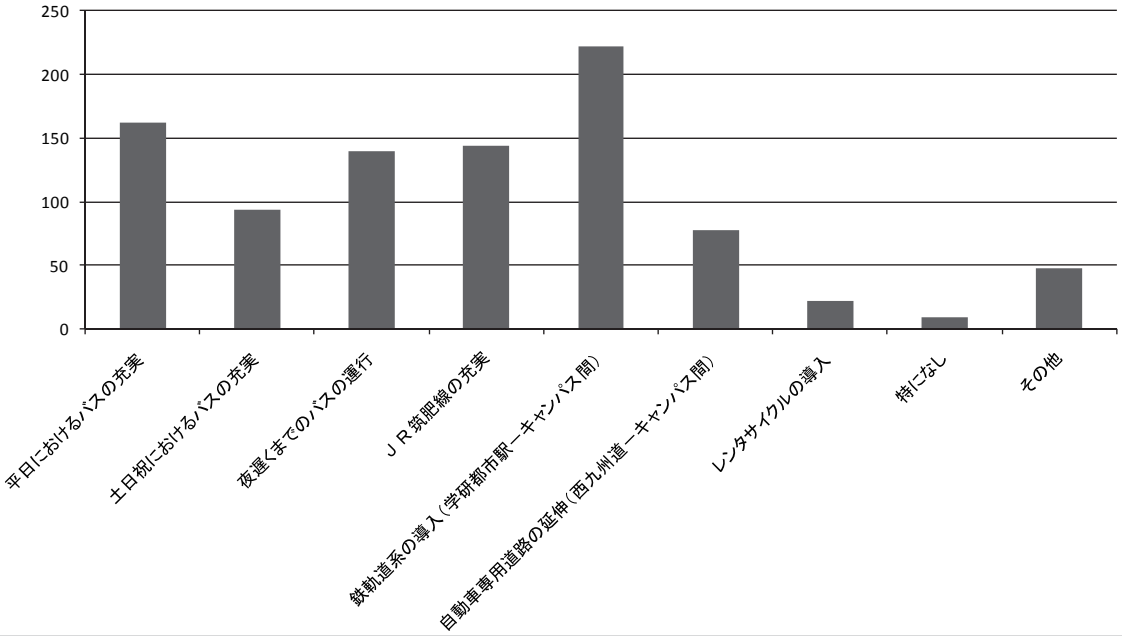
# 問 28. 伊都キャンパスへの通勤に関して、必要なもの、希望すること

・自由記述も含め、九大学研都市駅、又は、姪浜駅からキャンパスへのアクセスに関する意見が多かった。

| 必要・希望すること | |
|---|---|
| 平日におけるバスの充実 | 162 |
| 土日祝におけるバスの充実 | 94 |
| 夜遅くまでのバスの運行 | 140 |
| JR筑肥線の充実 | 144 |
| 鉄軌道系の導入（学研都市駅－キャンパス間） | 222 |
| 自動車専用道路の延伸（西九州道－キャンパス間） | 78 |
| レンタサイクルの導入 | 22 |
| 特になし | 9 |
| その他 | 51 |

伊都キャンパスへの通勤ために必要なもの・希望すること：その他（抜粋）

| |
|---|
| 駐輪場の充実 |
| 入構駐車関連の整備（職場に近いところに駐車できるように整備をお願いしたい） |
| 入構料金の値下げ |
| 土日祝日の入校規制の解除 |
| 土日等の休日には，車の入構の課金を免除していただけると助かります． |
| 強風など公共交通機関(筑肥線）不通時における対応(代替バスなど） |
| 姪浜駅から九大工学部までのバス路線 |
| JR筑肥線の運行状況を昭和バス乗り場に表示して欲しい．駅に行って待ちぼうけになったことが何度もある． |
| 平日夕方6時台のJRの上りの本数を4本から5本に増便して欲しい。 |
| 都市高速料金の通勤割引 |
| 周辺道路の整備と制限速度の緩和 |
| 通勤時間帯の渋滞解消 |
| 市営地下鉄の延長、七隈沿線沿いからのバスの運行 |
| 高速バス路線の拡充（「伊都キャンパス～JR箱崎」間、「伊都キャンパス～地下鉄姪浜駅」間など） |
| 混雑時もみんなが入れる屋根のついたバス停 |
| 他のバス会社も入れ、サービスの競争原理を考えて欲しい。 |
| バス路線の新設（高田→周船寺→キャンパス） |
| 天神からの直行便だけでなく、百地浜ランプから乗り入れる直行便があると便利 |
| 箱崎キャンパスとの連絡バスの大幅増便（学生の利用を前提として） |
| 構内循環バスの拡充、建物間雨風をしのぐ連絡通路の設置、天候が悪い場合のキャンパスまでの交通手段の確保（例：シェアライド） |
| 箱崎-学研都市駅直通電車の導入。西九州道周船寺ICに西向き降口の設置。 |
| 乗り換えが少なく、時間が正確な交通機関の充実 |
| 姪浜・伊都キャンパス間の自転車道の整備（特に海岸線は非常に危険） |
| 元岡地区から，構内へ入校できる道路を造ってほしい。（車，バイク等は進入禁止で可） |
| 街灯の増築 |
| 現在何度かバスに乗れずに、タクシーに乗ったが、その運賃が支払われなかった。 |
| 路線バス以外に大学でできる最大限の努力をすべきでしょう。 |



# 問 29. 伊都キャンパス周辺の生活環境等に関しての、意見・要望（自由記述）と回答

アンケートにご回答いただきありがとうございました。下記に主なご意見と回答を記載しています。
今後もよりよい環境づくりに向け、取り組んでまいります。

## １．学内施設に関する主なご意見

・大学周辺にはまだ店舗がないので、学内に書店や飲食店、郵便局、銀行など、生活利便施設を充実してほしい。

・キャンパス内の車道や歩道において、夜間照明が少ないため、歩行者が見えにくく危険。特に、女子学生や教職員においても、遅くまでキャンパスに残っていても安心できるように、治安や安全に取り組んでほしい。

・昼休み等の時間を利用して、学内でウォーキングを楽しんでいる人が増えてきたようだ。せっかくなので、このすばらしい自然を生かし、安全なウォーキング（ジョギング）コースがあれば、健康やストレス解消のためにいいと思う。今は、藪や雑草が生い茂り、いのししが掘ったと思われる穴がキャンパスのすぐ近くにも沢山あるので、整備等の検討をお願いしたい。

・通勤・通学の時間帯では、事故防止・安全対策として、正門からのバイク進入は禁止にした方がいいと思う。

・学生の交通マナーが非常に悪い。また、ウェストゾーンからスピードを出して下ってくる自転車についても早急の対策が必要（ノーブレーキで来る者が多く危険）。

・文系キャンパスも早く完成して欲しい。

**【回答】**

学内における生活利便施設は、工学系や六本松地区の移転にあわせて整備を行ってきました。銀行、郵便局、飲食店などの充実については、元岡土地区画整理事業などの大学周辺で進められているまちづくりに期待しており、学生・教職員のニーズにあったまちづくりをできる限り早期に実現していただくよう、地元や自治体等との連携のもとで、引き続き要望していきたいと考えています。

安全・安心なキャンパスづくりについては、夜間照明（外灯）やセキュリティポール（緊急通報装置）の増設を予定しています。自転車のスピード対策については、信号機の設置や注意喚起舗装等ハード面の対策を行うとともに、学生への交通マナーの徹底を図ります。バイクの進入については、進入ルートの分散化（正門からの幹線道路と大坂の池北側の二輪車専用ルート）を図る方向で調整中です。二輪車専用ルートには、安全対策のための標識等を設置します。今後も交通安全に気を配り、より良い運用と改善に取り組んでいきたいと考えています。

伊都キャンパスの遊歩道については、保全緑地やキャンパス・コモンの豊かな自然環境を活用し、安らぎと潤いを与える豊かな生活環境を提供するための散策路「ネイチャー・トレイル」を整備する予定です（マスタープラン 2001）。整備時期は今のところ未定ですが、古墳等の文化財包蔵地を含む緑地空間の有効活用を図りたいと考えています。

文系キャンパスについては、現在、用地の造成工事中であり、移転スケジュールのとおり、平成 29 年及び 30 年の移転を目指して準備を進める予定です。

## ２．駐車場・駐輪場に関する主なご意見

・建物と近いところに、駐車場の配置をお願いしたい。

・キャンパス内において、駐車場はまだ不足している。駐車場の拡張をお願いしたい。

・伊都キャンパスの駐車場代（課金代）が高い。

・土日祝は自動車入構を無料にしてほしい。

・キャンパス構内は自動車で溢れている。例えば、学生の自動車通学は原則として認めないなど、入構規制を強化することも一案ではないか。

・センター地区の駐輪場に屋根を付けてほしい。

**【回答】**

伊都キャンパスでは、交通事故を低減するために歩行者と車両との動線が交差することがないよう、できる限り歩車を分離するとともに、公共交通の利用促進をお願いしています。東西に長いキャンパス用地における地形的な制約と研究教育における学際的交流の促進を重視するとともに、施設周辺における駐車場が低質な景観とならないよう、建物および駐車場を集約的に配置しています。現在は、利用者の利便性にも配慮し、建物周辺においても暫定駐車場を整備しています。

また、センター地区には、626 台収容可能な立体駐車場を平成 22 年 4 月から供用開始するなど、駐車場の確保に努めています。

課金制度については、現在、自家用車による通勤・通学者等の増加が、指定場所以外での駐車増加などの構内環境の悪化を招いたため、これに対応するための駐車環境整備費を充当してきましたが限界があり、抜本的対策を行う財源確保のために本制度導入に踏み切ったものです。周辺の公共交通網を一層拡大し、充実させるためにも、教職員・学生を含む伊都キャンパス利用者が公共交通機関を利用していただくことが重要であると考えています。また、地球環境への配慮からも、自家用車の利用を控え、公共交通を利用して頂くようお願いします。

いただいたご意見等を踏まえ、建物周辺の駐車場の整備、違法駐車車両の取締方法、出構時課金システムへの変更等について検討を進め、課金制度を有効に運用いていきますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、センター地区入構ゲート南側に設置しているバイク専用駐輪場は、バイクの進入・退出時に自動車等との接触の危険性が高いことから、平成 22 年 3 月末に廃止し、自転車専用として活用します。新たに、センター地区立体駐車場前に屋根付きバイク専用駐輪場（約 1,200 台分）を整備しましたのでご利用願います。

駐輪場設置や屋根付き駐輪場設置についても利用者の利便性を考慮しつつ、配置を検討します。

## ３．交通関係に関する主なご意見

・バスや自動車交通の円滑化のためにも、都市計画道路学園通線など周辺道路整備の早期実現をお願いしたい。

・公共バスの運行本数の充実をお願いしたい。特に土日祝は、運行本数が少なく、最終運行時刻も早いため不便。

・ＪＲ筑肥線と昭和バスの発着について、接続がスムーズになるような運行をお願いしたい。

・朝の昭和バス周船寺経由（伊都キャンパス行き）について、雨天時など満車で乗車できないことがある。周船寺経由に空のバスを走らせてほしい。

・姪浜に居住する学生・教職員は多いので、姪浜－伊都キャンパス間のバスを走らせてほしい。ＪＲ筑肥線が運休したときにも利用できる。

・ＪＲ筑肥線は、強風時などに度々遅延や運休が発生している。

・ＪＲ九大学研都市駅について、利用者数の割に改札が少ないので、増設等の改善について、働きかけをお願いしたい。

・駅から大学までモノレールなど鉄軌道系の導入が必要。

・大学構内あるいは駅まで、電動自転車によるレンタサイクルがあれば便利と思う。

【回答】

伊都キャンパス周辺のアクセス道路については、学園通線や千里太郎丸線（福岡市）、波多江泊線（福岡県、糸島市）など、各自治体において鋭意整備が進められています。整備の進捗により、交通の円滑化も図られると考えています。

公共バスの利便性向上については、関係事業者と継続的に協議を行っています。西鉄バスや昭和バスは、これまでも便数の確保や臨時バスの運行等によって精力的に対応していただきましたが、さらなる運行の充実に向け、平成 22 年 4 月からは、平日の増便をはじめ、土・日・祝日についても便数を増やし、また最終運行時刻もさらに遅くするなど、利用者のニーズに対応していただくことにしています。また、朝の昭和バス周船寺経由伊都行きは、九大学研都市駅の次のバス停である山崎を始発とした便を新設し、周船寺など途中バス停での乗客を確実に乗せられるようにしています。

ＪＲとの接続については、大学での授業終了に伴うラッシュ時の対応も考慮しつつ、電車の発着にあわせた時刻になるよう設定しています。なお、今回の昭和バス増便によって、電車が到着するほぼすべての時間にあわせて、九大学研都市駅前からバスを運行できることになります。

姪浜－伊都キャンパス間のバス路線新設については、姪浜周辺居住者の動向等を勘案しながら、引き続き、事業者との協議を進めていきます。

ＪＲ筑肥線における安定した運行確保に係る課題については、安全管理上、雨・風による規制を緩めることはできません。強風対策など路線強化の検討を要望しておりますが、事業費やＪＲ路線全体での優先順位等を考慮し、現時点では困難な状況です。ただし、運転中止となった場合は、早期運転再開ができる体制を見直したとのことです（平成 21 年 8 月 1 日より）。九大学研都市駅の改札の数については、ＪＲ九州に改善の要望を行ったところ、平成 22 年 4 月から改札機を増設する旨の回答をいただいています。

軌道系の導入については、輸送力や定時制確保、魅力的な都市空間の形成などの面から有効と考えられますが、事業費や運営コスト、既存バス事業者との役割分担などの課題もありますので、引き続き、関係自治体等と連携しながら研究していきたいと考えています。

電動自転車を利用したレンタサイクルについては、環境に配慮したエネルギーキャンパスづくりへの貢献・ＰＲ、キャンパス内における手軽な移動手段の確保といった面からも有効な手段の一つと考えており、現在、早期実現に向けて検討を進めています。

## ４．まちづくり、周辺整備に関する主なご意見

・伊都キャンパスの周辺（歩いて気軽に行ける範囲）に商業施設や居住建物（アパート、マンション等）が少ないので増やしてほしい。

・早く大学周辺の生活環境を整えて欲しい。

・転居後は、新しい地域の方々と共に生活することになるので、地域の方々とのつながりを作りやすい活動を大学側としてサポートしてほしい。

・伊都土地区画整理事業の一刻も早い進捗に期待している（住環境、スーパー、学生用娯楽施設、文化施設、会議室など）。

・周辺に病院施設が少なく、キャンパス内での急な疾病、負傷に不安がある。

・キャンパス周辺にバイト先が少ない

・伊都キャンパス近くに職員用宿舎を整備してほしい。

**【回答】**

現在、伊都キャンパス・センター地区の南側隣接地、学園通線沿道の約 16ha では、大学をサポートするためのまちづくり、土地区画整理事業が進行中です。このエリアは、九州大学学術研究都市構想において学術研究都市の顔、シンボルとなる「タウン・オン・キャンパス」の一角に位置づけられており、学生住居や生活支援施設をはじめ、研究・開発機能などの市街地が形成される予定です。

土地区画整理事業の完了時期は平成 24 年度末ですが、学生・教職員のニーズにあったまちづくりをできる限り早期に実現していただくよう、地元や自治体等と連携しつつ、要望等を伝えていきたいと考えています。

また、ＪＲ九大学研都市駅周辺においても、福岡市西部の新たな拠点地域として、伊都土地区画整理事業（約 130ha）が進行中であり、駅の交通結節機能を中心に、商業地、住宅地が形成されます。現在、マンションや店舗等の建設、オープンが相次いでいます。

大学を支えるまちづくりは、途上にあり、アルバイトや病院施設等の環境も次第に整っていくものと期待されます。職員宿舎については、民間のアパート・マンションを活用していただくよう考えており、今のところ整備の予定はありません。